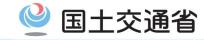
舗装版を剥がさず床版の劣化状況を把握する技術



技術名	スケルカ・橋梁床版内部診断技術	
開発者	ジオ・サーチ株式会社	
技術概要	車載型地中レーダ装置で取得した床版内部データの画像を数値化し、床版劣化状況を定量的に把握する。	
試行状況	外観および装置 反射応答波形図 低 高 マイクロ波装置 3方向前左右) フラインスキャンカメラ D-GPS装置 Q射レベル 255	度数 41 66 106 126 106 61 26 26 6 56 71 106 131 121 81 46 46 31 51 71 96 116 106 81 46 46 31 36 61 96 111 91 51 26 26 6 31 76 111 126 91 46 16 16 0 26 71 116 131 91 36 11 11 6 床版内部画像の数値化例 度数分布図
	従来技術 (舗装開削による調査)	新技術
精度	舗装開削後、目視や打音検査によって、床版コンクリートの浮きや土砂化の状況を確認する。 床版状況を直接確認できるため、精度は高い。	床版内部画像の数値化による定量的な判定と舗装開削時 における床版コンクリートの健全性を検証した結果、9箇所中 8箇所で数値化判定との合致を確認(判定精度89%)。
効率性	1橋 (開削1m×1m:2箇所) あたり 約1.5日 (開削90分、調査30分、復旧90分、 報告書とりまとめ1日)	1橋 (開削1m×1m:2箇所) あたり 約1.0日 (調査30分、画像診断60分、数値化30分、 カルテ作成0.5日)
コスト	調査の他、舗装切断・取り壊し・復旧費、交通誘 導員の配置が必要。1橋あたり約2百万円	車両による調査のため、舗装の切断・復旧や交通誘導員が不要。1橋あたり約35万円
評価	 ・数値結果の活用によって、専門技術者以外でも客観的に床版の健全性判定が可能である。 ・床版健全性に関する情報が高度化し、橋梁長寿命化計画における床版判定区分の精度が向上する。 ・床版下面の目視点検結果との組み合わせによって、床版補修設計時に有益な情報となる。 ・経年的な数値変化の把握によって、床版内部状況のモニタリングに有効である。 ・床版補修の施工前後における数値比較によって、定量的に床版の機能改善を確認できる。 	